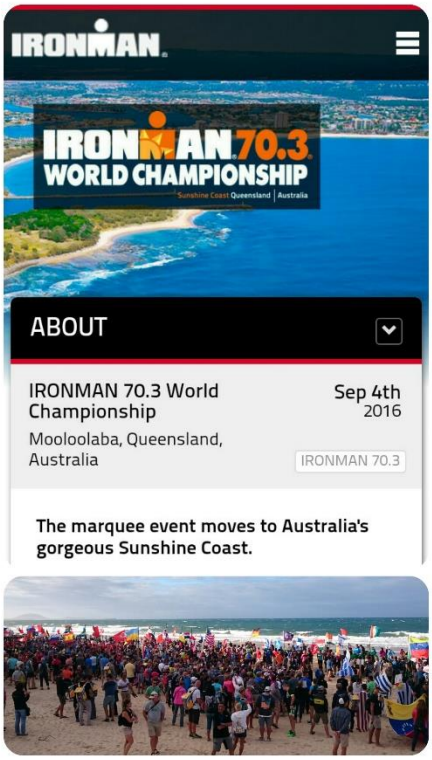
2016 アイアンマン 70.3 ワールドチャンピオンシップ参戦記

宿院 雅広



数年前セントレアの 70.3 に出たときは、チャンピオンシップのスロットを獲得するなんて、月に行くより難しいなんて参戦記に書きましたが、こうして今行くことができたことを考えると、努力をすれば何とかなるもんだと自分の中では隔世の感があります。

今回は 3 月の台湾でスロットをともに獲得した坂尻さんと彩さんの 3 人で参戦してきました。初めてのワールドチャンピオンシップに職場に 9 日間の長期休暇を申請。普通なら難色をしめされますが、「世界大会に出る！」という大義名分のもと、快く？送り出してもらえました。感謝感謝(^^)

[8 月 31 日(水)、9 月 1 日(木)]

31 日に伊丹→成田→シドニー、1 日にシドニー→ブリスベン→サンシャインコーストと移動時間は 24 時間ほどかかりました。でもうまくマイルを使って行けたので、往復 25,000 円ほどですから文句は言えません。

夕方からは、旧知のライバル、と言っても一度も勝ったことはありませんが、中島さんのお誘いに乗って、地元のオーストラリア人宅で BBQ。片言の英語ながらレースの前哨戦を楽しみました。

[9 月 2 日(金)]

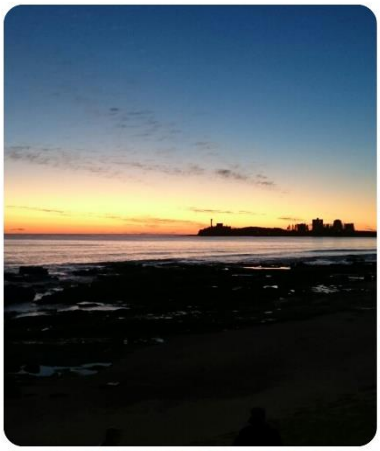
朝一番に会場に出かけ受付。その後はオフィシャルのショップで買い物を。チャンピオンシップの限定品がどれもこれも格好いいものですから、ついつい財布の紐が弛みます。

午後からは 3 人でバイクコースの下見に。でもコースがよくわかりません。途中で引き返し、説明会へ。40 ㎞を越えてから 20%の超激坂があるとか。しかもその前後にも結構なアップダウンがあり、路面も悪いとのこと。疲れた足に相当堪えそうです。

そのあとは、国別に分かれてのパレード。スロットを獲得した猛者たちが海岸まで練り歩きます。ものすごい数の見学者に、この舞台に立てることの幸せを噛みしめました。

[9 月 3 日(土)]
　早朝から彩さんと試泳に。あまりの波の高さにビビりました。高さは 2mくらいはあるかという巨大な波に果たして沖まで泳いで行けるのか、沖でもかなり大きなうねりがあるため満足に泳げるのかどうか、など不安な気持ちだけが残りました。
　でも、レースを離れて波遊びをするのには抜群です。日がな 1 日サーフィンでもしたいくらいでした。と言ってもサーフィンはできませんが(^^;
　昼は日本からの最高齢で参加の京都の大屋さんのアパートに招かれお食事会。KTC のデュアスロンにも来てくださった陽気なおじさんです。

[9 月 4 日(日)]
　朝 3 時に起床して、朝食を済ませ、元プロロードレーサーの善光さんの好意で車に同乗させてもらい会場へ。空が徐々に白みはじめ、朝焼けに染まった海岸線はとっても幻想的で、いやがおうにも気持ちが高ぶります。
　いよいよレースです。台湾のときはスロットを獲得するという目標があったため、かなり緊張していたのですが、今回は楽しもうという気持ちが先行してそれほど緊張はしません。



　7 時 30 分、50－54 歳カテゴリーの選手約 200 人がスイムスタート。波もなく抜群のコンディションです。バトルもなく、朝日を浴びた海岸の景色をちらちら見ながら、快適に泳ぎます。今回ほどスイムを楽しく感じたことは今までありませんでした。この舞台に立っていることの幸せと、海のきれいさ、景色の素晴らしさにただただ満足していたためです。
　でもそれが、後悔へつながる落とし穴だったとは。
　スイムフィニッシュしてバイクラックへ行くと、半分の 100 台以上バイクがありません。台湾では同エイジ約 80 人のうちの 3 人しか先行されていなかったのに。さすがチャンピオンシップです。

　前半の 20 ㎞は追い風を受けて時速 40 ㎞近くで飛ばすも、それ以上の速さで同エイジの選手に軽く追い越されます。20 ㎞を過ぎてからは急に力が入らなくなり失速。半ばサイクリング状態になりながらも、気持ちを切らさずにと思ってもどうしても力が入りません。夏前からときどき呼吸が苦しくなり、力が入らなくなる症状が出ていたのですが、それがそのまま出ました。それが原因なのか、単に追い込んだ練習ができていなかったためなのかはよくわかりません。原因の分析が必要です。
　それはさておき、外国人はバイクが強いです。100 回転くらいできれいに回して抜いていく人もあれば、80 回転ぐらいでごりごり回してすさまじいスピードで抜いていく人もいます。
　一番びっくりしたのは、国内では女性に抜かれたことは今まで一度もなかったのですが、今回は 5 分後にスタートしているにも関わらず、同年代の女性に抜かれるは抜かれるは何十人も。私の調子が悪かったことを差し引いてもホント速い。ペダリングのスキルというより、明らかに力が強い。参りました。
　完全に気持ちが切れてしまったバイクレグ。フィニッシュしたときは、もう後ろに 10 人ほどしかいません。あーやってもうた。

ランに入っても調子が上がりません。とにかく呼吸が苦しい。過呼吸に似た症状が出ています。2 kmでトイレに駆け込みしばらく座り込み、4 kmで歩き、5 kmで休憩。涼しかったので暑くてバテたわけではありません。バイクの不調をそのまま引きずってしまいました。

それでも歩いてでも前に進めば必ずフィニッシュできると自分に言い聞かせ、前を向き、決してあきらめません。

5 kmを過ぎてからようやく呼吸が落ち着きはじめ、走れるようになりました。でもキロ 5 分半がやっと。スイムの時に感じた幸せはどこへ行ったのか、そもそもそれが間違いだったのか、なんて思いながらの前半 10 kmでした。あと 10 kmこのまま苦しみながら走るのか。いや、このままフィニッシュしたのでは、後悔に後悔を重ねるだけと思い直し、どうすればいいかと考えた結果、とにかく明るく笑顔を振りまきながら走ることに気持ちを切り替えました。

すれ違う選手、抜かす選手、歩いている選手、沿道の応援者、エイドスタッフとできる限り声をかけ、タッチし、触れ合うことに徹しました。

そうすると苦しみが楽しみに変わっていくものです。自分の気持ちが変わると周りも変わります。周りが変わると自分もまた変わります。そうやって大会を盛り上げることができるんだと思いました

そして最後に赤いマットをゆっくり走り、万感の思いを胸にフィニッシュゲートをくぐる。

6 時間のレース、それは私にいろいろなことを考えさせてくれた旅でもありました。

夜は善光さんたちとプチ打ち上げ。

外国人の速さを目の当たりにしたことなど大会の思い出をあれこれと話しながら、最後はやっぱりトライアスロンはやめられないなぁなんて。

[9 月 5 日(月)]

朝に彩さんとオフィシャル会場へ行き、その後アワードパーティーへ。巨大スクリーンにレースの模様が映し出されている中に私の姿が。KTC のウェアがかなり目立っていたため、取り上げてくれたのかと。ただ残念ながら当の本人は見逃してしまいました。HP にアップしてくれないかなぁ。

夜は最後の打ち上げに中島さんたちとオージーステーキを食べに出かけました。エイジの世界では向かうところ敵なしの栗原君も同席し、時間が経つのも忘れて会話を楽しみました。かなりユニークでバイタリティのある青年で、心から応援したくなる若者でした。

[9 月 6 日(火)]
　サンシャインコーストを後にして、彩さんはブリスベンから日本へ。私はシドニーへ。

[9 月 7 日(水)、8 日(木)]
　朝 7 時からはシドニーの郊外まで 80 ㎞のバイクライド。郊外の道路には、幅 2m くらいの自転車専用のレーンがあり、快適に飛ばせます。それにしても平日にも関わらず、すれ違ったロードバイクは多かったなぁ。
　オーミステイクなことは、レンタルの Wi－Fi ルーターをどこかで落としたこと。せっかく安いプランでレンタルしたのに機械代とホテルの有料 Wi－Fi で大幅出費。金額は…。言えません(T T)
　午後からはシドニー市内を観光ランしながら、ついでに仕事にも生かせるようにと博物館を 2 つ見学。
　いい勉強になりました。
　8 日早朝にシドニーから成田、翌日伊丹を経由して京都へ戻り、職場へ直行。
　こうして 9 日間に渡る遠征が終わりました。

〇最後に
　今回スイムで感じた幸せは、バイクで奈落の底へ突き落され、それをそのままランにも引きずり、あーもうこのままフィニッシュかと思ったとき、走れる喜びを感じる価値に気持ちを転換。
　フルのアイアンマンに比べると距離は半分で時間も半日で終わります。過去にアイアンマンは何回か出たことがありますので、その苦しさは良く知っていますが、70.3 にもまたドラマがあります。
　今回のチャンピオンシップは、多くの人との出会いがあり楽しかったのですが、同時に苦しくもつらくもあり、それだけに自分を成長させてくれた大会となりました。
　また必ずこの舞台に戻ってきたい。次は最高のパフォーマンスを発揮するために。
　しばらくはこの舞台で力を試したいと思っています。

　最後にご一緒しました坂尻さん夫妻、彩さん、そして現地で出会った多くのみなさん、応援していただいたみなさん、どうもありがとうございました。